

第 1 問

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	ソフトウェア	30,000,000	ソフトウェア仮勘定	30,000,000
	未払金	10,000,000	普通預金	10,000,000
2	当座預金	24,000,000	土地	24,000,000
	営業外受取手形	16,000,000	土地売却益	16,000,000
3	クレジット売掛金	312,000	売上	300,000
	支払手数料	12,000	仮受消費税	24,000
4	発送費	3,600,000	未払金	3,600,000
	仕入	1,200,000	買掛金	1,200,000
5	子会社株式	29,000,000	その他有価証券	4,000,000
			普通預金	25,000,000

【解説】

(1) ソフトウェアの問題

自社利用のためのソフトウェアを外注で作成した場合、完成時にはソフトウェア（無形固定資産）として処理する。契約時に全額を未払計上する場合は、契約時の仕訳としては以下の仕訳が考えられる。

契約時（借） ソフトウェア仮勘定 30,000,000 （貸） 未払金 30,000,000

その後、2 回分の支払いが行われているので、次の仕訳もすでに行われている。なお、支払いは 3 回目と同様普通預金からなされているものと仮定する。

支払時（借） 未払金 10,000,000 （貸） 普通預金 10,000,000

（借） 未払金 10,000,000 （貸） 普通預金 10,000,000

ここまでは、すでに行われている仕訳である。この取引において、ソフトウェアが完成したため、ソフトウェア仮勘定からソフトウェア勘定に振り替える。

(借) ソフトウェア 30,000,000 (貸) ソフトウェア仮勘定 30,000,000

さらに最後の支払いを普通預金から行う。

(借) 未払金 10,000,000 (貸) 普通預金 10,000,000

(2)有形固定資産の売却、営業外手形の問題

帳簿価額 ¥24,000,000 の土地を ¥40,000,000 で売却しているので、差額の ¥16,000,000 が土地売却益となる。不動産会社でない場合、土地の売買は本業以外の取引となる。したがって、この取引で受け取った手形は営業外の手形と考えられるので、営業外受取手形で処理される。

(3)クレジット売掛金、消費税の問題

売上高は商品販売高の ¥300,000 である。

この時の仮受消費税は、商品販売高の 8% であるから、¥24,000 と計算される。

クレジット販売でなければ、クレジット手数料がかからないので、¥300,000 と ¥24,000 の合計額 ¥324,000 が借方の売掛金の金額となる。一方、クレジットでの販売であり、販売時にクレジット手数料を費用として認識する場合には、¥300,000 の 4% である ¥12,000 を支払手数料（費用）として借方に計上しなければならない。したがって、クレジット売掛金は ¥324,000 から支払手数料の ¥12,000 を差し引いた ¥312,000 となる。

(4)発送費、引取運賃の問題

発送費の代金を支払っていないときは、未払金で処理される。仕入（三分法の場合）に含められるべき引取運賃の代金を支払っていない場合は、買掛金とする。

(5) 子会社株式の問題

すでに所有していた取引先の株式は、取引先の株式ということ、10% と売買目的としては所有割合が高いことなどから、その他有価証券として処理していると考えられる。

追加で 50% 取得し 10% と合わせると、発行済株式の 60% となるため、種類株式を範囲としない限りにおいては、議決権の過半数を取得したものとみなせる。したがって、この株式は子会社株式として処理すべきということになる。

第 2 問

【解答】

問 1

総勘定元帳(抜粋)

売掛金 5

平成28年	摘要	借方	平成28年	摘要	貸方
4/1	前期繰越	1,700,000	4/16	諸口	3,300,000
	10 売上	3,300,000		21 売上	975,000
	20 売上	5,850,000		25 電子記録債権	800,000
				30 次月繰越	5,775,000
		10,850,000			10,850,000

商品 8

平成28年	摘要	借方	平成28年	摘要	貸方
4/1	前期繰越	2,500,000	4/6	買掛金	270,000
	5 諸口	1,450,000		10 売上原価	1,660,000
	6 買掛金	320,000		20 売上原価	2,950,000
	14 諸口	1,950,000		30 商品評価損	75,000
				30 次月繰越	1,260,000
		6,215,000			6,215,000

問 2

- ① 当月の売上高 ¥ 8,168,000
- ② 当月の売上原価 ¥ 4,685,000
- ③ 当月末の売上割戻引当金勘定の残高 ¥ 11,000

【解説】

問 1

取引の内容に沿って仕訳を示して見ることで解答を導き出せる。そこで各取引において必要な仕訳を示し、それに 2 種類の商品の残高を加味して解説を加える。なお、商品勘定については、便宜上、(甲)、(乙)として仕訳をしている。

4月1日

甲商品

乙商品

500 個 × @ ¥ 3,000 = ¥ 1,500,000 400 個 × @ ¥ 2,500 = ¥ 1,000,000

4月5日

(借) 商品 (甲) 640,000 (貸) 前払金 600,000
 商品 (乙) 810,000 買掛金 850,000

甲商品

乙商品

500個 × @ ¥3,000 = ¥1,500,000 400個 × @ ¥2,500 = ¥1,000,000
 200個 × @ ¥3,200 = ¥640,000 300個 × @ ¥2,700 = ¥810,000

平成28年		摘要	借方	平成28年		摘要	貸方
4	1	前期繰越	2,500,000				
	5	諸口	1,450,000				

- ・商品勘定には、甲商品と乙商品の合計額である ¥1,450,000 を記入する。
- ・相手勘定は前払金と買掛金なので、摘要欄には 諸口 と記入する。

4月6日

(借) 買掛金 270,000 (貸) 商品 (乙) 270,000
 (借) 商品 (甲) 320,000 (貸) 買掛金 320,000

甲商品

乙商品

500個 × @ ¥3,000 = ¥1,500,000 400個 × @ ¥2,500 = ¥1,000,000
300個 × @ ¥3,200 = **¥960,000** **200個** × @ ¥2,700 = **¥540,000**

※100個追加され 300個になった。

※100個返品されて 200個になった。

平成28年		摘要	借方	平成28年		摘要	貸方
4	1	前期繰越	2,500,000	4	6	買掛金	270,000
	5	諸口	1,450,000				
	6	買掛金	320,000				

- ・乙商品は商品勘定の貸方に、甲商品は商品勘定の借方に記入する。
- ・それぞれ相手勘定は買掛金なので、摘要欄には買掛金と記入する。

4 月 10 日

(借) 売 掛 金 3,300,000 (貸) 売 上 3,300,000

(借) 売 上 原 価 1,660,000 (貸) 商 品 (甲) 1,660,000

甲商品

乙商品

500 個 × @ ¥ 3,000 = ¥ 1,500,000

400 個 × @ ¥ 2,500 = ¥ 1,000,000

50 個 × @ ¥ 3,200 = ¥ 160,000

200 個 × @ ¥ 2,700 = ¥ 540,000

※上記 550 個の計 ¥ 1,660,000 が売上原価

※乙商品は変化なし。

250 個 × @ ¥ 3,200 =

¥ 800,000

※残高は 250 個 ¥ 800,000

総勘定元帳(抜粋)

売 掛 金

5

平成 28 年	摘要	借方	平成 28 年	摘要	貸方
4	1 前期繰越	1,700,000			
	10 売上	3,300,000			

商 品

8

平成 28 年	摘要	借方	平成 28 年	摘要	貸方
4	1 前期繰越	2,500,000	4	6 買掛金	270,000
	5 諸口	1,450,000		10 売上原価	1,660,000
	6 買掛金	320,000			

※売掛金勘定の借方に ¥ 3,300,000 を記入。摘要欄は売上。

※商品勘定の貸方に ¥ 1,660,000 を記入。摘要欄は売上原価。

4 月 11 日

仕訳なし。

4 月 14 日

(借) 商品 (甲) 1,485,000 (貸) 受 取 手 形 900,000
 商品 (乙) 460,000 買 掛 金 1,045,000

甲商品

乙商品

250 個 × @ ¥3,200 = ¥800,000 400 個 × @ ¥2,500 = ¥1,000,000
450 個 × @ ¥3,300 = ¥1,485,000 200 個 × @ ¥2,700 = ¥540,000
200 個 × @ ¥2,300 = ¥460,000

※仕入れた商品の合計額は、¥1,945,000 となる。

平成 28 年		商 品		平成 28 年		8	
摘要		借 方		摘要		貸 方	
4	1	前期繰越	2,500,000	4	6	買掛金	270,000
	5	諸 口	1,450,000		10	売上原価	1,660,000
	6	買掛金	320,000				
	14	諸 口	1,945,000				

- ・商品勘定の借方に ¥1,945,000 を記入する。
- ・相手勘定は受取手形と買掛金なので、摘要欄は諸口。

4 月 16 日

(借) 現 金 3,296,700 (貸) 売 掛 金 3,300,000
 売 上 割 引 3,300

※10 日に計上された売掛金 ¥3,300,000 の回収。0.1% の ¥3,300 が売上割引となる。

平成 28 年		売 掛 金		平成 28 年		5	
摘要		借 方		摘要		貸 方	
4	1	前期繰越	1,700,000	4	16	諸 口	3,300,000
	10	売 上	3,300,000				

- ・売掛金勘定の貸方に ¥3,300,000 を記入。¥3,296,700 としない点に注意。
- ・相手勘定は現金と売上割引なので摘要欄は諸口。

4 月 20 日

説明の都合上、甲商品と乙商品を別々に仕訳する。

甲商品

(借) 売 掛 金 2,600,000 (貸) 売 上 2,600,000
 (借) 売 上 原 価 1,295,000 (貸) 商 品 (甲) 1,295,000

乙商品

(借) 売 掛 金 3,250,000 (貸) 売 上 3,250,000
 (借) 売 上 原 価 1,655,000 (貸) 商 品 (乙) 1,655,000

甲商品

250 個 × @ ¥ 3,200 = ¥ 800,000
 150 個 × @ ¥ 3,300 = ¥ 495,000

乙商品

400 個 × @ ¥ 2,500 = ¥ 1,000,000
 200 個 × @ ¥ 2,700 = ¥ 540,000

※上記 400 個計 ¥ 1,295,000 が売上原価

50 個 × @ ¥ 2,300 = ¥ 115,000

300 個 × @ ¥ 3,300 = ¥ 990,000

※上記 650 個計 ¥ 1,655,000 が売上原価

※残高は 300 個 ¥ 990,000

150 個 × @ ¥ 2,300 = ¥ 345,000

※残高は 150 個 ¥ 345,000

平成 28 年		摘 要	借 方	平成 28 年		摘 要	貸 方
4	1	前期繰越	1,700,000	4	16	諸 口	3,300,000
	10	売 上	3,300,000				
	20	売 上	5,850,000				

平成 28 年		摘 要	借 方	平成 28 年		摘 要	貸 方
4	1	前期繰越	2,500,000	4	6	買 掛 金	270,000
	5	諸 口	1,450,000		10	売 上 原 価	1,660,000
	6	買 掛 金	320,000		20	売 上 原 価	2,950,000
	14	諸 口	1,950,000				

- ・ 甲商品掛売高 ¥ 2,600,000 と乙商品掛売高 ¥ 3,250,000 の合計 ¥ 5,850,000 を売掛金勘定の借方に記入。

- ・ 甲商品売上原価 ¥1,295,000 と乙商品売上原価 ¥1,655,000 の合計 ¥2,950,000 を商品勘定の貸方に記入。
- ・ 発送運賃の支払いは次の通り。

(借) 発送費 8,000 (貸) 現金 8,000

4 月 21 日

(借) 売上 975,000 (貸) 売掛金 975,000

返品ではないので、商品の残高に変化なし。また、売上値引は原価にも影響しないことに注意する。

平成 28 年		摘要	借方	平成 28 年		摘要	貸方
4	1	前期繰越	1,700,000	4	16	諸口	3,300,000
	10	売上	3,300,000		21	売上	975,000
	20	売上	5,850,000				

4 月 25 日

(借) 電子記録債権 800,000 (貸) 売掛金 800,000

平成 28 年		摘要	借方	平成 28 年		摘要	貸方
4	1	前期繰越	1,700,000	4	16	諸口	3,300,000
	10	売上	3,300,000		21	売上	975,000
	20	売上	5,850,000		25	電子記録債権	800,000

4 月 28 日

(借) 売上割戻引当金 13,000 (貸) 現金 20,000
 売上 7,000

4 月 30 日

(借) 商品評価損 75,000 (貸) 商品 (甲) 60,000
 商品 (乙) 15,000
 (借) 売上原価 75,000 (貸) 商品評価損 75,000

甲商品

乙商品

$$300 \text{ 個} \times @ \text{ ¥ } 3,300 = \text{ ¥ } 990,000 \quad 200 \text{ 個} \times @ \text{ ¥ } 2,300 = \text{ ¥ } 460,000$$

※4月20日の残高が計算の基準になる。商品評価損の内訳は次のとおり。

$$\text{甲商品} : 300 \text{ 個} \times (\text{ ¥ } 3,300 - \text{ ¥ } 3,100) = \text{ ¥ } 60,000$$

$$\text{乙商品} : 200 \text{ 個} \times (\text{ ¥ } 2,300 - \text{ ¥ } 2,200) = \text{ ¥ } 15,000$$

平成28年		摘要		借方		平成28年		摘要		貸方	
4	1	前期繰越		2,500,000		4	6	買掛金		270,000	
	5	諸口		1,450,000			10	売上原価		1,660,000	
	6	買掛金		320,000			20	売上原価		2,950,000	
	14	諸口		1,950,000			30	商品評価損		75,000	

問 2

①当月の売上高

問 1 の解説で示した仕訳から、次に様に計算できる。

借方	4月25日	975,000	貸方	4月10日	3,300,000
	4月28日	<u>7,000</u>		4月20日	<u>5,850,000</u>
借方計		982,000	貸方計		9,150,000
			貸方残高		<u>8,168,000</u>

②当月の売上原価

問 1 の解説で示した仕訳から計算できる。

4月10日	1,660,000
4月20日	2,950,000
4月30日	<u>75,000</u>
計	<u>4,685,000</u>

③当月の売上割戻引当金勘定の残高

$$\text{ ¥ } 24,000 - \text{ ¥ } 13,000 = \text{ ¥ } 11,000$$

(4月28日の取引)

第 3 問

【解答】

精 算 表
平成28年3月31日

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	65,350		50				65,400	
当座預金	450,000			300,000			150,000	
受取手形	280,000						280,000	
売掛金	390,000			23,000			367,000	
売買目的有価証券	147,550			4,050			143,500	
繰越商品	69,800		88,150	69,800			86,645	
				1,505				
建物	7,500,000		1,500,000				9,000,000	
備品	670,000						670,000	
建設仮勘定	1,200,000			1,200,000				
のれん	196,000			28,000			168,000	
満期保有目的債券	495,200		1,200				496,400	
支払手形		263,000						263,000
買掛金		320,000						320,000
退職給付引当金		680,000		175,000				855,000
貸倒引当金		28,000	23,000	7,940				12,940
建物減価償却累計額		1,575,000		228,750				1,803,750
備品減価償却累計額		326,800		68,640				395,440
資本金		6,500,000						6,500,000
利益準備金		540,000						540,000
繰越利益剰余金		383,600						383,600
売上		6,770,000				6,770,000		
有価証券利息		7,500		1,200		8,700		
仕入	5,450,000		69,800	88,150	5,431,650			
給料	360,000				360,000			
保険料	120,000			30,000	90,000			
	17,393,900	17,393,900						
(雑)益				50		50		
貸倒引当金(繰入)			7,940		7,940			
(有価証券)評価損			4,050		4,050			
(棚卸減耗)損			1,505		1,505			
減価償却費			297,390		297,390			
(のれん)償却			28,000		28,000			
(退職給付)費用			175,000		175,000			
(前払)保険料			30,000				30,000	
当期純(利益)					383,215			383,215
			2,226,085	2,226,085	6,778,750	6,778,750	11,456,945	11,456,945

【解説】

決算整理事項その他

1.

①現金の実査

(借) 現	金	50	(貸) 雑	益	50
-------	---	----	-------	---	----

②譲渡した手形の決済

裏書譲渡した手形が決済された場合、本来、偶発債務に関する仕訳が必要になる。

しかし、偶発債務は 2 級の範囲ではないので、ここでは仕訳なし。

③貸し倒れの処理

(借) 貸倒引当金	23,000	(貸) 売掛金	23,000
-----------	--------	---------	--------

※前期の売掛金の貸倒れであるから、借方は貸倒引当金となる。

④建物の完成

(借) 建	物	1,500,000	(貸) 建設仮勘定	1,200,000
			当座預金	300,000

2. 貸倒引当金の設定

のれんに関する決算整理仕訳を示すと次のようになる。

(借) 貸倒引当金繰入	7,940	(貸) 貸倒引当金	7,940
-------------	-------	-----------	-------

当期末に必要な貸倒引当金の金額は次のように計算される。

$$\begin{array}{r} \text{受取手形} \\ \text{¥280,000} \end{array} + \begin{array}{r} \text{売掛金} \\ (\text{¥390,000} - \text{¥23,000}) \end{array} = \text{¥647,000}$$

$$\text{¥647,000} \times 2\% = \text{¥12,940} \text{ (要設定額)}$$

1 の③で、貸倒引当金を ¥23,000 取り崩している。残高試算表の金額が ¥28,000 なので、修正後の残高は ¥5,000 となっている。

したがって、差額補充が必要な金額は次に様になる。

$$\text{¥12,940} - \text{¥5,000} = 7,940$$

3. 売買目的有価証券の評価替え

売買目的有価証券に関する決算整理仕訳を示すと次のようになる。

(借) 有価証券評価損	4,050	(貸) 有価証券	4,050
-------------	-------	----------	-------

売買目的有価証券の期末における帳簿価額と時価は次のようになる。

	帳簿価額	時 価
A 社株式	¥ 37,800	¥ 41,500
B 社株式	¥ 81,900	¥ 72,200
C 社社債	<u>¥ 27,850</u>	<u>¥ 29,800</u>
計	¥ 147,550	¥ 143,500

¥147,550 から ¥143,500 に値下がりしているのので、差額の ¥4,050 は評価損となる。

4. 商品の期末評価

商品に関する決算整理仕訳を示すと次のようになる。

(借) 仕 入	69,800	(貸) 繰 越 商 品	69,800
(借) 繰 越 商 品	88,150	(貸) 仕 入	88,150
(借) 棚 卸 減 耗 損	1,505	(貸) 繰 越 商 品	1,505

棚卸減耗損は次のように計算される。なお、正味売却価額@¥221 が原価@¥215 を上回っているため、評価損は生じていない。



$$(410 \text{ 個} - 403 \text{ 個}) \times ¥215 = ¥1,505$$

この場合は、棚卸減耗損は独立の科目とするため、仕入に振り替える仕訳は行わない。

5. 減価償却

減価償却に関する決算整理仕訳を示すと次のようになる。

(借) 減 価 償 却 費	297,390	(貸) 建物減価償却累計額 (旧)	225,000
		建物減価償却累計額 (新)	3,750
		備品減価償却累計額	68,640

※前期以前に取得している建物の減価償却累計額には (旧) をつけ、当期に取得した建物に対する減価償却累計額には (新) をつけ、便宜的に区別している。

前期以前取得の建物に対する減価償却

$$¥7,500,000 \times 0.9 \div 30 \text{年} = ¥225,000$$

当期取得の建物に対する減価償却

$$¥1,500,000 \times 0.9 \div 30 \times 1 \text{か月} \div 12 \text{か月} = ¥3,750$$

備品に対する減価償却

$$(¥670,000 - ¥326,800) \times 0.2 = ¥68,640$$

6. のれん

のれんに関する決算整理仕訳を示すと次のようになる。

(借) のれん償却 28,000 (貸) のれん 28,000

金額計算は次のようになる。

まず、償却期間 10 年のうち、期首までにどれだけ償却されてきたかを確認する。

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
償却済み	償却済み	償却済み	当期(未償却)

上記の当期までの時系列により、3 年分償却されていることがわかる。

したがって、残りは 7 年分となる。

決算整理前残高試算表におけるのれんの金額は ¥196,000 であるから、7 で割った ¥28,000 が当期の償却額となる。

7. 満期保有目的債券

満期保有目的債券の評価替えに関する決算整理仕訳を示すと次のようになる。

(借) 満期保有目的債券 1,200 (貸) 有価証券利息 1,200

この満期保有目的債券の取得から償還までの時系列を示すと次のようになる。

当期				
平成 26 年	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
償却済み	未償却	未償却	未償却	未償却

27 年度が当期であり、30 年度は 31 年 3 月 31 日で終わる。取得から償還まで 5 年間 60 か月である。26 年度期首に額面 ¥100 あたり ¥98.80 で取得している。取得原価は次のように計算できる。

$$¥500,000 \times 0.988 = ¥494,000$$

取得原価と額面の差は

$$¥500,000 - ¥494,000 = ¥6,000$$

この金額を 60 ヶ月で割ると、

$$¥6,000 \div 60 \text{ ヶ月} = ¥100$$

1 か月当たり ¥100 を 1 年分 12 か月出かけると、年間の償却額が求められる。

8. 退職給付の処理

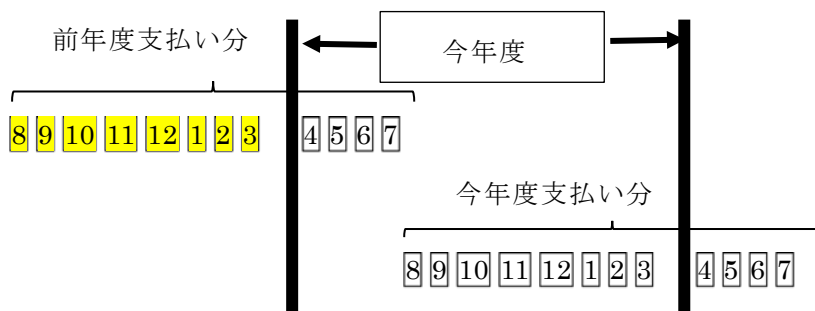
退職給付に関する決算整理仕訳を示すと次のようになる。

(借) 退職給付費用 175,000 (貸) 退職給付引当金 175,000

9. 前払保険料の処理

保険料に関する決算整理仕訳を示すと次のようになる。

(借) 前払保険料 30,000 (貸) 保険料 30,000



前年度支払い分のうち 4 月から 7 月までの 4 か月分は今年度期首に再振替され、当期の保険料として計上されている。さらに、8 月に 12 か月分支払っているから、決算整理前の残高試算表には、4 か月 + 12 か月 = 16 か月 と 16 か月分が計上されていることになる。つまり残高試算表の保険料 ¥120,000 は 16 か月分ということになるので、1 か月分の保険料は次のように計算される。

$$¥120,000 \div 16 \text{ か月} = ¥7,500 \text{ (1 か月分)}$$

今年度の決算整理で、4 か月分の前払保険料を計上することになるが、4 か月分は以下のように ¥30,000 となる。

$$¥7,500 \times 4 \text{ か月} = ¥30,000$$

最後に、損益計算書欄と貸借対照表欄で求めた当期純利益が ¥383,215 で一致していることを確かめる。